

**WES 8101（すみ肉溶接資格認証基準）の2017年度版への改正に関する告知**  
**《今後の資格運用や各種料金についての概要》**

**1. 改正内容の概要**

**WES 8101**（すみ肉溶接資格認証基準）が2017年7月1日付で、2013年度版→2017年度版に改正となりました。**WES 8101：2017**は当協会HPで閲覧できます。購入もHPから可能です。

([http://www-it.jwes.or.jp/wes\\_ki/wes.jsp](http://www-it.jwes.or.jp/wes_ki/wes.jsp))

主たる改正点は次のとおりです。詳細は**WES 8101：2017**をご確認ください。

**(1) 資格の種類の変更**

- ① 旧規格（2013年度版）では、基本級は**JIS Z 3801**（手溶接技術検定における試験方法及び判定基準）に基づく突合せの下向被覆アーク溶接姿勢資格を当てていましたが、これを取り止めました。
- ② 上記①の代わりに、旧規格で専門級の一つであった**Fil-F**を新しい基本級に設定しました。これら変更により、この資格がすみ肉溶接の系列であることを明確にしました。**Fil-F**は基本級となりましたが、格下げの意味合いではなく、技量内容も従来と変わりません。
- ③ 溶接姿勢において、旧規格で「水平（横向）」と表記していたのを「水平すみ肉」に変更しました。表記の変更のみで、姿勢そのものの変更ではありません。
- ④ 溶接姿勢において、旧規格で「上向」と表記していたのを「上向水平すみ肉」に変更しました。表記の変更のみで、姿勢そのものの変更ではありません。
- ⑤ 旧規格では被覆アーク溶接のみしか設定しておりませんでした。マグ溶接も新設しました。資格区分は上記①～④の被覆アーク溶接の設定を踏まえております。これに伴い、各条項でマグ溶接についての規定も追加しています。

新しい資格種類の一覧

溶接方法	資格の級別	資格の種別記号	溶接姿勢	試験材料の厚さ	溶接継手の区分
被覆アーク溶接	基本級	Fil-F	下向	9 mm	板の重ね継手溶接 (すみ肉溶接)
	専門級	Fil-V	立向上進		
		Fil-H	水平すみ肉		
		Fil-O	上向水平すみ肉		
マグ溶接 (新設)	基本級	SFil-F	下向	9mm	板の重ね継手溶接 (すみ肉溶接)
	専門級	SFil-V	立向上進		
		SFil-H	水平すみ肉		
		SFil-O	上向水平すみ肉		

## (2) 受験資格の変更

- ① 被覆アーク溶接の基本級の受験資格は、前記 (1) ①で基本級の資格種別から除いた **JIS Z 3801** (手溶接技術検定における試験方法及び判定基準) に基づく、突合せの下向被覆アーク溶接姿勢資格の保有に変更しました。
- ② 被覆アーク溶接の専門級の受験資格は、**WES 8101** に基づく下向姿勢のすみ肉溶接技能者資格の保有に変更しました。
- ③ 被覆アーク溶接と同様の考え方でマグ溶接を新設しました。

### 新しい受験資格の一覧

溶接方法	資格の級別	受 験 資 格
被覆アーク溶接	基本級	<b>JIS Z 3801</b> 及び <b>WES 8201</b> に基づく次のいずれかの資格を有すること。 N-1F, A-2F, N-2F, A-3F, N-3F
	専門級	基本級 Fil-F を所有する者。ただし、基本級の試験に合格することを前提として基本級の試験と専門級の試験を同時に受験することができる。
マグ溶接 (新設)	基本級	<b>JIS Z 3841</b> 及び <b>WES 8241</b> に基づく次のいずれかの資格を有すること。 SN-1F, SA-2F, SN-2F, SA-3F, SN-3F
	専門級	基本級 SFil-F を所有する者。ただし、基本級の試験に合格することを前提として基本級の試験と専門級の試験を同時に受験することができる。

## (3) 合否判定基準の具体化

外観試験と曲げ試験の具体的な判定基準を掲載しました。

## (4) 倫理的事項の規定化

当該資格の認証を受けた者は、職務の遂行に際して、社会規範、法令、関係諸規則などを遵守する必要があることを規定しました。当協会が運営する他の溶接技能者資格でも同様の規定をしています。

## (5) 認証の失効の規定化

当該資格が失効となる事由を規定化しました。上記 (4) の倫理的事項の規定の背反も失効事由の一つとしています。

## 2. 新規格による手続き開始時期

### (1) 新規試験

受験お申込みのタイミングに係らず、2018年5月1日以降から新規格に基づいて評価試験を実施します。

### (2) 再評価試験

受験お申込みのタイミングや現有資格の有効期限に係らず、2018年5月1日以降から、新規格に基づいて評価試験を実施します。

### (3) サーベイランス

お申込みのタイミングや現有資格の有効期限に係らず、2018年5月1日以降から、新規格に基づいて手続きします。

新規格に基づいて合格者に発行される適格性証明書においては、これまで専門級として記載されていた Fil-F は、基本級と記載されるようになります。ただし、Fil-F の技量内容自体に変わりはありません。

#### 旧規格運用時において Fil-F なしで専門級 Fil-V/H/O のみを取得し、現有している方への特例措置について

当協会の溶接技能者資格の仕組みでは、基本級なしに専門級を取得することはできません。新規格での被覆アーク溶接の基本級は Fil-F に変更となりましたので、今後、専門級 Fil-V/H/O を新規に取得したい場合、基本級である Fil-F の取得も必要になります。

しかし、新規格での運用に移行するにあたっての特例措置として、旧規格運用時に Fil-F なしに Fil-V/H/O を取得し、現有している方<sup>(注)</sup>については、Fil-F は既に付与されたものとして資格継続の手続きができるようにします。具体的には次のとおりです。

(注)旧規格では Fil-F も専門級でしたので、Fil-F なしに Fil-V/H/O を取得することができました、

#### (1) 再評価試験

新規格に移行して最初の再評価試験では、基本級となった Fil-F を追加受験する必要はありません。現有する専門級の受験のみで結構です。合格者には当該専門級のみならず、基本級 Fil-F も記載された適格性証明書を発行します。ただし、専門級が不合格となった場合は、基本級 Fil-F も付与できません。

\* 更に3年後の次回再評価試験の仕組みは当協会の他の溶接技能者資格と同様になります（基本級省略できますが、専門級不合格だと受験しなかった基本級も失効となります）。

#### (2) サーベイランス

既得の専門級 Fil-V/H/O のみならず、基本級 Fil-F も保有しているものとして手続きする形を継続します。新しい（有効期限が延長となった）適格性証明書には、基本級 Fil-F も記載されます。

### 3.各種料金

新規格に基づく各種料金は次のとおりです。

#### (1) 評価試験受験料金（新規試験・再評価試験）

- ・実技試験の料金です。学科試験はありません。
- ・被覆アーク溶接の料金は旧規格時と同じです。

溶接方法	資格の種別	料金（実技）
被覆アーク溶接	Fil-FVHO（1件毎）	7,620円
【新設】マグ溶接	SFil-FVHO（1件毎）	8,060円

← 従来のまま

合格後には別途、認証料金（2,480円）を申し受けます。この金額は石油工業溶接士資格以外の当協会のその他溶接技能者資格における共通の金額です。

#### (2) サーベイランス料金

- ・被覆アーク溶接とマグ溶接とも共通の金額です。また、石油工業溶接士資格以外の当協会のその他溶接技能者資格における共通の金額です。
- ・被覆アーク溶接の料金は旧規格時と同じです。

溶接方法	資格の種別	料金
被覆アーク溶接	Fil-FVHO（1件毎）	1,290円
【新設】マグ溶接	SFil-FVHO（1件毎）	

← 従来のまま

以上

一般社団法人 日本溶接協会  
お問い合わせ先： 03-5823-6325  
（事業部 溶接技能者資格担当）